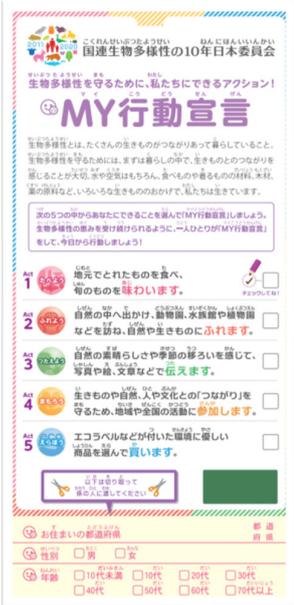


# UNDB-JにおけるMY行動宣言の活用



国際自然保護連合日本委員会  
事務局長 道家哲平

## そもそも論として



- UNDB-Jの主流化の主要ツールとして、生物多様性国家戦略にも位置づけられた。
- 生物多様性の損失は、社会の仕組みが原因。個々人の日々の生活から解決しよう（だけが強調されること）の問題点はある。
- 一方、「生物多様性」は状態を表す言葉で、動的要素がなく、「何をすればよいか」という想像を持ちにくい。行動に置き換えることで、伝わりやすさが一段上がるという声も多い
- 元になった5アクションは「自分のために良いことが生物多様性にも良い」だった（安全安心と食べよう、人とのつながりとふれよう、自己表現と伝えよう）が、My行動宣言になる中で、「生物多様性のために」できることと、コミュニケーションのアプローチが変わった。
- 宣言 = 行動 ではない。生物多様性認知度とも連動が弱い。

# 派生形を作る議論の興り

国連生物多様性の10年日本委員会(UNDB-J)



MY行動宣言事例集

- 環境省関連イベントでの宣言に限定されるなどMY行動宣言数の伸び悩み(2012-2014)。配布数ではなく宣言を重視したことから、宣言部分の記入や切離しなどの手間が課題。徐々に、みなし宣言を許容する形になった。
- UNDB中間年(2015)で中間評価と2020年目標値の設定を、UNDB-J委員参加のワークショップを通じて行うことで、機運を盛り上げつつ、自分事化してもらいたいという取組があった(環境省の岡野さんが当時担当者)。結果、100万宣言や、にじゅうまる2020宣言という目標値が設定された。
- 100万宣言のために、動物園水族館が鍵という期待があったが、WS後の懇親会で日動水の担当者から「今の使いにくいんだよね」という悩みの吐露があり、IUCN-Jから日動水に協働を持ち掛け、地球環境基金の助成を獲得し、デザイン・教材・ワークショップ開発ができる荻本央氏(屋号:よそみっこ(旧よそ見屋 ぷろここ))をパートナーに教育展示施設版を作成。
- 教育普及施設版作成が嚆矢となり、農林水産版、ダイバー、マザーアース・(女子高生版(Blue Earth Projectによる))なども作られるようになった。

[https://undb.jp/wp/wp-content/uploads/2019/06/action\\_jirei.pdf](https://undb.jp/wp/wp-content/uploads/2019/06/action_jirei.pdf)

## 教育普及施設版の工夫

「宣言するためのツール」から「宣言してもらうためのツール」

コミュニケーションデザイン

結果、最終的に、26万宣言中、少なくとも8万は動物園水族館

# 両面で作成



\* Cool Choiceロゴがあるのは、気候変動と生物多様性保全の両輪の活動を、動物園水族館に広めたいとの思いから、Cool Choice推進の事業とも連携したため

# 宣言想定



\* オリジナル切り取り部分にある属性情報（住所、性別、年代）は、蓄積されてない。ツールの活ユーザー（動物園水族館）が特定されているので、類推可能

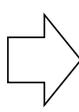
# 順番変更

「ふれよう」は渡す時点で達成。  
状況に合わせた説明しやすい順序に変更

- Act 1  **地元**でとれたものを食べ、旬のものを**味わ**います。  
チェックしてね!
- Act 2  **ふれよう**自然の中へ出かけ、動物園、水族館や植物園などを訪ね、自然や生きものに**ふれ**ます。
- Act 3  **つたえよう**自然の素晴らしさや季節の移ろいを感じて、写真や絵、文章などで**伝え**ます。
- Act 4  **まもろう**生きものや自然、人や文化との「つながり」を守るため、地域や全国の活動に**参加**します。
- Act 5  **つたえよう**エコラベルなどが付いた環境に優しい商品を選んで**買**います。



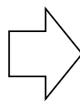
Act 1  **たべよう** 地元でとれたものを食べ、旬のものを**味わ**います。



**たべよう**  
季節のもの、ちか近くでとれたものをたべよう

\* 「地元」「旬」が、学年によっては伝えにくい

Act 2  **ふれよう** 自然の中へ出かけ、動物園、水族館や植物園などを訪ね、自然や生きものに**ふれ**ます。



**ふれよう**  
いろいろな人と、いろいろな季節に、生きものがいるところに行こう

何度も動物園/水族館に来てもらいたい。

## 2 たべよう

たとえば、季節はずれの時期に冷暖房を使って野菜を育てたり、遠くでとれた食べものを運ぶことは、エネルギーをたくさん使うので、温暖化につながります。温暖化によって、ホッキョクグマ・サンゴ・ライチョウなどのすみ場所がなくなってしまうので、できるだけ季節のもの、近くのを食べましょう。

## 3 えらぼう

たとえば、下のマークがついた商品があります。

### 森にやさしい



エフエスシー FSC



レインフォレスト・アライアンス

### 海にやさしい



エムエスシー MSC



マリン・エコラベル・ジャパン

## 4 まもろう

たとえば、海の生きものを守るために、海辺の清掃活動に参加しましょう。海や砂浜にゴミが落ちていると、ウミガメがビニール袋を食べてしまったり、海鳥がつり糸にかかってしまいます。だから、海辺を掃除しましょう。

- 行動の理由（解説）を記載
- 大人（解説員や家族）が、子どもにも、ツールの趣旨に沿って説明できるように



須磨水族館



神戸動物園

生きものをまもる活動のヒントは、

にじゅうまるプロジェクト → <http://bd20.jp>

いきものぐらし → <http://5actions.jp>

生物多様性 5つのアクションのホームページで探せます。

右下、切り離すことで、宣言と見なした。三角の切端は、動物園水族館の各園館で工夫された

追加情報先の案内

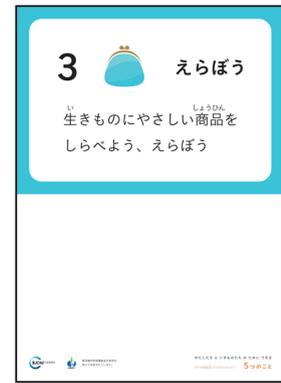


各種素材をダウンロードいただき、ご活用ください。

- 📄 MY行動宣言「5つのこと」教育展示施設版
- 📄 【ポスター】MY行動宣言「5つのこと」.pdf
- 📄 【シール台紙】MY行動宣言「5つのこと」(A1サイズ)
- 📄 【ポスター・シール台紙見本資料】MY行動宣言子供版.pdf
- 📄 【参加方法】MY行動宣言「5つのこと」.pdf
- 📄 【説明用紙芝居 解説用冊子】MY行動宣言「5つのこと」
- 📄 【説明用紙芝居】MY行動宣言「5つのこと」.ppt



A1ポスター



シート台紙

動物園水族館の活用を想定してツールを各種提供  
これらを揃えて、日動水の研修会等で説明実施



説明用のパワポと原稿案など、PDFとPPTデータを提供

## J-GBFへの示唆

- 目的（的） - 目標（的に至る標） - 必要な手法の整理
  - 認知度 => 人の目に留まる仕掛け。（ex.種子の風散布）
  - 宣言 => 変容への一歩
  - 行動変容 => 芽が出るような仕掛けとケア（適した土壤に、種が届き、目を出すように働きかける）
- ネイチャーポジティブのための、MY行動宣言は何か？
- J-GBFのネットワークを最大限活かすには？
- MY行動宣言をするためのツールorしてもらおうためのツール
- 「私のため？」 「生物多様性のため？」 「大切な人のため？」

## 【参考】IUCN—CECのNature for All事業成果 自然を守る行動は、自然体験から生まれる



“Connecting with Nature to Care for Ourselves and the Earth”

<http://natureforall.global/s/Connecting-with-Nature-ehpw.pdf>

- 幼少期のポジティブで意義のある自然体験と、身近なロールモデルの存在が、成人になったときの自然環境に配慮した行動をとるかどうかの重要な要素である（＝知識は重要だけど、それだけでは不十分）
- 場の感覚（Sense of Place）・自然とのつながり（Connectedness）が、自然を守ったり、破壊されることへの反対行動につながりやすい
- ほぼあらゆる社会で、人と自然のつながりが失われている
- これらのコミュニケーションに、認知科学行動科学の知見などをもっと活用すべき